



昭和45年度指定 高指第20号

(故)大井見太郎

【雅号】大見 だいけん

生年／大正2年 指定技術名／漆器・蒔絵



まきえ「すずりばこ」

蒔絵「硯箱」

京都に於いて蒔絵全般の技法を習得する。肉合蒔絵、研出し蒔絵、平蒔絵の技法に優れており、高岡では数少ない本格的な蒔絵師としてその評価は高い。作品は、卵殻と梨子地蒔絵を中心に鶴を描いたものであるが、胴張った硯箱と蒔絵の意匠が落ち着いたなかにも温和な趣を漂わせている秀作である。

昭和48年作

素材・技法／木製、卵殻、金粉・研出し蒔絵

寸法／高さ5.5cm×幅22cm×奥行26cm

〔表彰・受賞歴〕

昭和37年 富山県美術展知事賞
昭和53年 高岡市市民功労者表彰
卓越した技能者（現代の名工）表彰
昭和57年 黄綬褒章
昭和62年 勲六等瑞宝章

〔経歴〕

昭和11年 北林鹿川氏に師事し漆器蒔絵技術を習得
昭和15年 京都の北村春照氏・竹中微風氏に師事し、その後独立
昭和24年 高岡漆器指導所に勤務し、22年間にわたり業界の指導にあたる
昭和45年 高岡市伝統工芸産業技術保持者指定
平成 2年 富山県指定無形文化財保持者認定